

今日のみことば

□ 3月25日(日) サムエル記上 20章

サウルの息子ヨナタンが、ダビデ殺害への熱情を知り、ダビデ逃走の手助けをしました。ヨナタンは謀をして、父サウロの真意を確かめようとして。

□ 3月26日(月) サムエル記上 21章

亡命の旅に出たダビデはまず祭司アヒメレクのところに行った。そこでダビデは自分の行動をアヒメレクには偽りました。人間の弱さのなせるわざでもありました。

□ 3月27日(火) サムエル記上 22章

ダビデはガテの王アキシのところに逃れたが、アキシの家来が不信を持ったので、ダビデは狂気を装って、その危機を乗り越えた。

□ 3月28日(水) サムエル記上 23章

逃亡中のダビデであったが、アドラム近郊の町ケイラがペリシテに攻撃されているのを知り、その侵略からケイラの町を救いました。

□ 3月29日(木) サムエル記上 24章

エン・ゲディの洞穴に逃げていたダビデの側に、サウルが来たがその命運を手にしましたが、ダビデはその最終の事態を避けました。

□ 3月30日(金) サムエル記上 25章

イスラエルの偉大な指導はサムエルは死んだ。サムエルの晩年は影響力も衰え、霊的感化力は失われ、またもやイスラエルに霊的墮落が始まった。

□ 3月31日(土) サムエル記上 26章

ダビデはサウルの陣中に入るとどめを刺す機会があったが彼は自らの手で行動は起こさなかった。それは神がなさることであると、ダビデは時を待った。

ろ ぼ No. 1860
2018年 3月25日
日本バプテスト立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ 27:20-21

しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放してイエスを死刑に処してもらうようにと群衆を説得したそこで、総督が、「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と言うと、人々は、「バラバを」と言った。

イエスを嫉む祭司長らユダヤ人宗教家たちによって、イエスは十字架につけられました。そしてその意義は、はかりしることができません。私たちは神さまに造られた人間として、神さまがこの私を造られた思いを語り聞かせていただくのです。

今日、世界中の人たちはいかなる思いを持って生きているのでしょうか。一見、平穩そうに見える人々の生活の中身は壮絶で、苦悩に満ちあふれています。人々の思いは自分第一に向けられていますアメリカの大統領が「アメリカ第一」を主張して、世界が混乱に陥っていることは周知のことです。その行く末は、これまでの歴史の事例が私たちに語ってくれるものでしょう。私たちは本当にこのよ

うな世界を望んではいません。私たちは神さまがご支配はなさる世界こそ望んでいます。

イエスのご受難に思いをはせるとき、そこで起こった出来事のうち、私は私たちがしっかり聞かなければならない大切なことを聞くのでした。イエスに反対する者たちが望んでいたものは、この地の平和でしたが、それは自分たちの望む平安でした。極端に言えば自分さえ良ければと言うものでした。それではどこまで行っても、願うものを手に入れることはできませんそこでイエスが私たちに示されたのは、途方もないものでした十字架です。そしてそれは神さまが私たちに示されたものでし

た。私たちはこのイエスの思いをしっかりと受け止めることを通して、その思いに沿えるものとされるのでした。

私はそこにピラトに示唆されるものを見させていただくのです。ピラトはイエスが死に価する罪を犯したものでないことを認識していました。大勢の群衆を前にして判断を下さなければならず、集まってきた人々に、「どちらを釈放してほしいのかバラバ・イエスか、それともメシヤといわれるイエスか」と問いかけたのです。「人々は『バラバを』と」といいました。ピラトの「いったいどんな悪事を働いたのか」といっても、群衆はますます激しく、「十字架につけろ」叫び続けました。これ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が大きくなりそうになのを見て、「この人の血について、わたしには責任はないお前たちの問題だ」と、バラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架をつけるために引き渡しました。

これが、イエスが十字架刑に定められたいきさつです。あまりにも理不尽なことでしたが、イエスはこのことについては黙されました。イエスが「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人の身代金として自分のいのちを献げるために来た」(マタイ20:28)と言われた言葉を思い出させていただいています。イエスは私たちの罪の贖いの救いのために来て下さいました。そのために十字架にかかられました。「そこに愛がある」と言うことです。「自分第一」では決して願いは実現することはありません。私たちが生きる道はこれです。「主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。」(ヨハネ一3:16)。

次週の聖書・説教

マタイ28:1-10 イエスは復活された

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
マルコ 16:1-8 沈黙が破られるとき

十字架につけられ死なれたイエスの遺体は、アリマタヤのヨセフの願いで、彼の墓に葬られました。安息日が明けるまでそのまま安置されました。墓から降ろしただけで、清めも住んでいませんでしたから、婦人たちは早朝早くに、墓に行って遺体を清めたいと願っていました。

大きな入り口の墓石をどうしようかと話し合いながら来ると、入り口の石は取り除かれ、イエスの遺体はそこにはありませんでした。天の使いがいて「イエスはここにはおられないガリラヤで待っておられる」と弟子に告げるようにと言いました。婦人たちは、驚きと恐ろしさのあまりに言葉が出ませんでした。これは正直な主イエスの復活にであった人の証言の言葉です。復活されたイエスは、ガリラヤで会おうと言われるのでした。まさに福音の伝播はここから始まりました。



Read God's Word.